

氏 名：織方 愛

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 140 号

学位授与年月日：2016 年 3 月 10 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）

副査 田代 順子（聖路加国際大学教授）

副査 松谷 美和子（聖路加国際大学教授）

副査 成瀬 和子（東京医科大学）

論 文 題 目：Schoolchildren's Obesity Status, Lifestyle Behaviors, and Their
Predictors: Development of Healthy Weight Model in Urban Indonesia.

博士論文審査結果

新興国インドネシアにおいて、肥満は大きな健康課題の一つであり、保健省は肥満に関するガイドラインを示しているものの、学校保健の現場では、対処できていない現状である。そこで、本研究は、学童の肥満に焦点あて、PRECEDE Model を用いて、学童の肥満と関連するライフスタイルの前提要因、強化要因、実現要因を予備調査から抽出し、その関連を評価し、学童期の健康的な体重の促進モデルを形成し、学校での保健プログラムを提言することを目的としたものであった。

「方法としては、インドネシアの 5 つの学校で 9 から 11 歳の小学生を対象とした質問紙調査を実施し、579 名からの回答を得た。分析の結果、対象者の 40%が肥満と判定され、肥満に結びつくライフスタイルとその要因について構造方程式モデリングを用いて解析し、その全体的な構造を明らかにした。

審査において指摘された点は、以下の点である。

1. タイトルが論文の内容を適切に表現していないため再考する必要があること
2. 序論・目的・目標・結果・分析・考察の一貫性を持たせる必要があること
3. 用語の用法、本文・図表の表記について適切に修正すること
4. サブストラクション、理論枠組に一貫性を持たせること、18 歳時 BMI で肥満状態を評価する妥当性を示すこと
5. 行動と予測因子の分類を混同しているところがあるので整理すること
6. 肥満状況のモデリングにおいて、どのグループのどの行動やプレディクターが肥満指標と関連しているのか不明であるため、学校別・性別等で分析をする必要があること
7. インドネシアの学童肥満や NCDs の傾向はいつからか、経済成長・医療費等との関連などから考察する必要があること
8. 研究のオリジナリティ・同種の研究にどのような知見を加えたかを述べる必要があること

これらの指摘に対して適切に修正がなされ、とくに学校別・性別に詳細にライフスタイルと関連要因を検討された結果、睡眠の問題やジャンクフードの摂取、運動のための安全な環境、運動する仲間の存在などが、性別・学校別の特徴を持って明らかになるなど、さらに意義深い知見が得られた。

急速に発展するインドネシア都市部において、肥満へと変化してきている子供たちの健康に求められる、食事と運動の環境や社会的な環境について明らかにし、効果的な学校システムや介入プログラムの開発の基礎となる材料を提供した点で評価できた。発展途上国における NCD 対策が求められる中、今後の国際看護学の発展への貢献も大きいと考えられた。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与すること に値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。